

技能実習生3人 介護福祉士合格



介護福祉士の資格試験に合格した(右から)李平さん、シャグタルスレン・ナラツエグさん、白梅栄さん。港区の特別養護老人ホーム「港寿楽苑」で

「日本でずっと働く」原動力

港区の介護施設で働く外国人技能実習生3人が今春、国家資格の介護福祉士の試験に合格した。資格を取れば就労ビザが取得できるため、日本で働き続けられるようになる。三人は将来的に母国で暮らす家族を呼び寄せ、介護士として働き続けることを希望。介護人材が不足する中、施設側も外国人の手厚い支援に力を注ぐ。

(坂本圭佑)

中国、モンゴル出身 施設も語学など支援

三人は、いずれも中国出身の李平さん(27)と白梅栄さん(30)、モンゴル出身のシャグタルスレン・ナラツエグさん(24)。技能実習制度を活用して来日し、二〇一九年から社会福祉法人「昌明福祉会」が運営する特別養護老人ホーム「港寿楽苑」と「第Ⅱ港寿楽苑」で実習している。今は単身で日本にきている三人だが、いずれは家族を呼び寄せて一緒に暮らすことを考えている。技能実習生は期間を終えると帰国しないといけないが、多様な介護人材を確保したい法人側の勧めもあり、三人は就労ビザを得られる介護福祉士の資格取得を希望。一月の筆記試験に臨んだ。介護職を目指した理由はさまざまだが、いずれも日本の高いレベルの介護を学びたかったという。李さんは、祖父が病気で亡くした際に何もできなかった経験から「家族をケアできるようにになりたい」と志した。三人とも来日当初は日本語がうまく話せず「本当に大変だった」と口をそろえる。それでも仕事を続けてこられたのは、職員たちの温かい支えがあったから。法人は一八年に県内で初めて技能実習生を受け入れ、これまでに九人を育成してきた。三人には「先生役」の職員をつけて日本語教育まで担い、手作りのプリントやテストで学習の進捗を確認。港寿楽苑統括本部長の単琴音さんは「介護だけでなく日本語教育までセットで教えなければ、資格の取得は難しい」と語る。介護福祉士の資格試験に向けては、終業後に協力し合って勉強したり、職員に質問したりして準備。合格発表を見た白さんは「結果が出るまでドキドキしていたので、本当にうれしかった」。シャグタルスレンさんは「それぞれに見合った介護ができるプロの介護士になる。専門的な勉強を続けて、どんなことにも対応できるようにになりたい」と前を見据える。法人では今年、さらに四人の技能実習生を受け入れる方針。単さんは「三人が資格を得たことで、これからは先輩の指導にも期待できる。ステップアップを続けてもらい、長く働き続けられる環境をつくっていきたい」と誓った。